



令和元年度文化庁文化交流使(長期派遣型)

田村 圭吾

京料理 萬重若主人、京都観光おもてなし大使、全国芽生会連合会 監事

- 派遣国:ニュージーランド、エルサルバドル、ハンガリー、マケドニア、レバノン、アラブ首長国連邦
- 活動期間:2019年8月26日～10月4日

【生年月日】1970年3月16日

【学歴】大谷大学卒業

京都西陣の萬重(創業昭和12年 1937年)の長男として生まれ、学生時代はボーイスカウト活動に従事し、大学生時代は京都の代表を務め、1990年オーストラリア・メルボルンで開催された世界大会に日本代表として派遣され、翌年 山中湖畔で開催された大学生年代の全国大会の副実行委員長を務める。

幼少期より家業の手伝いをし、大学卒業後、各地で修業し、その後、家業に従事。

萬重にはカール 16 世・グスタヴ・スウェーデン国王が来店されたこともある。

業界では「日本料理アカデミー」に設立と同時に参加。地域食育副委員長として 15 年以上に渡り全国の小中高大学生に指導を続け、京都市教育委員会の推進委員も務め、過去には教科書にも掲載された。

創立 65 年になる若手料理人の京都料理芽生会会長を 2017 年から 2 年間務め、同全国連合会の副理事長を歴任、現在、同全国連合会の監事を務める。

海外での活動は日本料理アカデミー設立時にフランス・リオンで開催された「日仏ワークショップ」(ポール・ボキューズ氏、パスカル・バルボ氏も来場)に参加。和食の無形文化遺産登録記念のフランス外務省晩餐会、ハワイで日米カウンシル主催の現地料理人(ロイ・ヤマグチ氏、ハレクラニ料理長ビブラム・ガーグ氏など)と 700 人のチャリティーパーティー、ミラノ万博(京都ウィーク)、クアラルンプールでの「和食ハレの日イベント」でも腕を振るう。野菜ソムリエ京都を立ち上げ、現在顧問を務める。

2018 年に和食文化に関連する諸学問を体系化し、食をめぐるさまざまな課題の解決に向けた道筋を示すことを目的とする「和食文化学会」の設立総会にも参画し、和食文化学会員として和食の学術的な視点からの研究も行っている。

2019 年度/2000 年度 文化庁が世界に日本文化を発信するために毎年文化人を派遣する「文化交流使」に指名され、令和元年 8 月～10 月に掛けて世界 6 か国(ニュージーランド、エルサルバドル、北マケドニア、ハンガリー、レバノン、ドバイ)において日本食文化普及に努める。同年京都市から観光おもてなし大使にも任命され、現在に至る。